

3,000km を超える大回遊！ 北海道と沖縄で同一のザトウクジラ個体を確認

一般財団法人 沖縄美ら島財団総合研究センター(沖縄県本部町)は、これまでロシアやフィリピンの研究機関との共同研究において、ザトウクジラがロシア、沖縄、フィリピン間を回遊していることを解明しています。この度、新たに国立大学法人北海道大学北方生物圏フィールド科学センター(北海道函館市)との共同研究を行い、沖縄周辺と北海道周辺海域で撮影された写真を基にザトウクジラの同一個体を発見し、ザトウクジラが回遊中に北海道沖を経由することを示唆する新たな報告を行いました。本研究の成果は、日本哺乳類学会の学術誌「哺乳類科学」に掲載されました。

■発表雑誌■

雑誌名:哺乳類科学

論文名:ザトウクジラの南北回遊:北海道東部太平洋沿岸の個体が沖縄の識別個体と一致

The North-South migration of humpback whales: Photo-identification match of an individual from the Pacific coast of eastern Hokkaido and breeding areas in Okinawa.

著者名:三谷曜子¹、小林希実²、岡部晴菜²

(¹国立大学法人北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、²一般財団法人沖縄美ら島財団)

掲載号:第60巻 第2号(2020年7月)

■ポイント■

- ザトウクジラは、尾びれ腹側の特徴を用いて個体を識別することができる。
- これまでの共同研究で、ロシア-沖縄間で69個体、フィリピン-沖縄間で100個体の同一個体を確認。
- 2018年10月15日、北海道釧路沖で発見されたザトウクジラ5頭の内、1頭の尾びれの写真と過去に沖縄周辺海域で確認された個体の尾びれの写真を照合した結果、一致した。
- 上記個体は、ロシア等の摂餌海域から沖縄等の繁殖海域への南下回遊(移動)の途中に、北海道釧路沖に来遊し確認されたと考えられる。北海道と沖縄でザトウクジラの同一個体が確認、学術的に報告されたことは今回が初めてであり、現時点で明らかとされていない広範囲なザトウクジラの回遊経路を解明する上で大変貴重な発見である。

■研究者プロフィール■

小林 希実(こばやし のぞみ):

一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター動物研究室・研究員。博士(海洋科学)。2015年より現職。専門は鯨類の生活史、生物の音響行動学的研究等。

岡部 晴菜(おかべ はるな):

一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター動物研究室・研究員。2006年より現職。専門は鯨類生態学、鯨類の目視調査・ストランディング調査、動物標本の作製・管理等。

＜お問い合わせ＞ 一般財団法人 沖縄美ら島財団 企画広報課 仲宗根・宮内
TEL 0980-48-3649 / FAX 0980-48-3122
Mail: oki-pr@okichura.jp

<研究の背景>

ザトウクジラは、夏季は高緯度海域で摂餌を行い、冬季に低緯度海域へ繁殖のため回遊することがわかっています。西部北太平洋海域では、ロシア周辺が摂餌海域、沖縄、奄美、小笠原、フィリピン近海等が繁殖海域として知られています。

当財団では、繁殖海域の一つである沖縄周辺海域において、1991年から約30年に亘り、来遊状況等の野外調査を実施してきました。ザトウクジラは尾びれの模様や形状が個体毎に異なるため、尾びれ写真による個体の識別が可能です。これらの特徴をもとに、ロシアやフィリピンの研究組織と共同研究を実施した結果、これまでにロシア-沖縄間で計69個体、



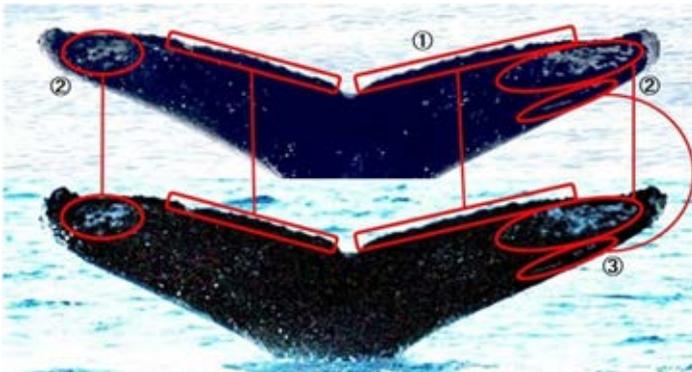
ブリーチするザトウクジラ

フィリピン-沖縄間で計100個体の同一個体を確認しています。しかし、回遊に伴う移動が広範囲であること等から、上記海域間の回遊経路については未だ不明な点が多く残されています。

<研究成果の概要>

2018年10月15日、北海道大学の調査船「うしお丸」が北海道釧路沖で5頭のザトウクジラを発見しました。この時撮影された5頭の尾びれ写真と、当財団が沖縄周辺で収集した尾びれ写真を照合した結果、この内の1頭が沖縄の本部半島および慶良間諸島周辺海域で過去3回確認されたクジラ(識別番号:R-529)と同一個体であることが分かりました。

この個体は、夏にロシア等の摂餌海域で過ごした後、沖縄等の繁殖海域への回遊途中に、北海道釧路沖に来遊したのではないかと考えられます。この発見により、西部北太平洋海域に生息するザトウクジラは、ロシア等の摂餌海域から北海道の太平洋側沿岸を通り、日本近海やフィリピン等の繁殖海域へ南下している可能性が示唆されました。未だ不明な点の多い、日本周辺のザトウクジラの回遊経路解明に向け、大変貴重な発見、報告となりました。



識別番号：R-529の尾びれ写真。

上：北海道釧路沖、下：沖縄慶良間諸島沖で撮影。

【R-529の照合ポイント】

- ① 尾びれ上端部（ギザギザ部分）形状の一致
- ② 左右両端の白い模様形状の一致
- ③ 右下の白い線状傷の一致

尾びれの形状や模様は、30年以上経ってもほとんど変化しないことが確認されている。

<今後の展開>

今後は日本全体の回遊状況や来遊拠点間の個体交流等の把握を目指して、国内の各組織との共同研究を予定しています。ザトウクジラは、国内各地でホエールウォッチングの対象として注目されています。沖縄県内では、ホエールウォッチング参入事業者数は年々増加傾向にあり、ザトウクジラは冬場の観光産業を支える貴重な観光資源として利用されています。これらの研究成果は、観光産業において今後も重要な位置を占めるザトウクジラの資源管理や保全活動に役立つと考えられます。